

Book Review



AHA ガイドライン 2010 と 歯科医院での緊急対処法

瀬尾憲司 著



Reviewer

一戸達也

(東京歯科大学歯科麻酔学教授)

B5 判, 108 頁
定価 3,990 円
(本体 3,800 円+税 5%)
医歯薬出版刊



このたび、新潟大学大学院の瀬尾憲司教授が著された『AHA ガイドライン 2010 と歯科医院での緊急対処法』という書籍を読ませていただく機会を得た。本書は、AHA の心肺蘇生ガイドラインが 2010 年に改定されたことに基づき、2007 年に発行された『劇画でみる、これだけはしてほしい歯科医院の救急対処 AHA ガイドライン 2005 準拠』の内容を一新して上梓されたものである。

前書では、AHA の心肺蘇生ガイドライン G2005 の基本的な考え方と手技が紹介され、さらに後半の部分では劇画を用いて、歯科医院において患者に緊急事態が発生した際にどのように対応していくのかがわかりやすく示されていた。救急処置に関する書籍は、写真やイラストが多く含まれているものの、全体的な流れが今ひとつわかりにくいものが多いため、いざ行うとなると、実際に歯科外来でどのように対応すればよいのかがわかりにくいことがある。このような状況を踏まえ、前

書では劇画を用いて歯科医院で緊急事態が発生した際に“何を考え、どのように行動すべきなのか”が具体的に示されており、歯科医療関係者に対する救急処置の教科書として、たいへん読みやすいものになっていた。

本書は、前書の特徴を活かしつつ、さらにそれぞれの考え方や手技に対する学問的背景の説明がなされており、入門書としても、また専門家の参考書としても、有益な内容を含んだ優れた書籍に進歩している。

心肺蘇生法については、ILCOR (International Liaison Committee On Resuscitation: 国際蘇生連絡協議会) が国際標準となるガイドラインのフレームを作成し、それに各地域の蘇生関連団体が地域の实情に合わせた若干の修正を行って心肺蘇生ガイドラインとして提示している。

わが国の場合、ILCOR の加盟団体である日本蘇生協議会が、日本救急医療財団と共同で心肺蘇生ガイドラインを取りまとめている。AHA の心肺蘇生

ガイドラインは、アメリカ心臓協会が示したガイドラインであるので、わが国のガイドラインとは若干異なる部分も含まれているが、2010 年改定の最も重要な骨子である「速やかに絶え間ない胸骨圧迫を実施すること」については、どちらのガイドラインも同様に扱われている。

加えて、わが国で現在実施されている研修のなかでは、AHA の心肺蘇生トレーニングコースは内容が最も充実しており、本書を読んだ後で AHA の心肺蘇生トレーニングコースに参加すると、心肺蘇生に関する知識と技能が効率的に身につくものと思われる。

歯科治療に関連して死亡する患者は年間数名程度と推定されている。歯科医師が医療人である以上、心肺蘇生の知識と技術は必須のものである。適切な救急対応ができなかったために患者が不幸な転帰をとることのないよう、本書を参考にして救急処置の基本的な知識と技術をぜひ身につけていただきたい。